高瀬舟縁起

森鴎外

青空文庫

京都の高瀬川は、五條から南は天正十五年に、二條から五條までは慶長十七年に、角倉了以（すみのくらりょうい）が掘つたものださうである。そこを通ふ舟は曳舟である。原來たかせは舟の名で、其舟の通ふ川を高瀬川と云ふのだから、同名の川は諸國にある。しかし舟は曳舟には限らぬので、和名鈔には釋名の「艇小而深者曰※（ていせうにしてふかきものをきようといふ）」とある※の字をたかせに當ててある。竹柏園文庫の和漢船用集を借覽するに、「おもて高く、とも、よことともにて、低く平なるものなり」と云つてある。そして圖には※（さを）で行（や）る舟がかいてある。

徳川時代には京都の罪人が遠島を言ひ渡されると、高瀬舟で大阪へ廻されたさうである。それを護送して行く京都町奉行附の同心が悲しい話ばかり聞せられる。或るとき此舟に載せられた兄弟殺しの科を犯した男が、少しも悲しがつてゐなかつた。其仔細を尋ねると、これまで食を得ることに困つてゐたのに、遠島を言ひ渡された時、銅錢二百文を貰つたが、錢を使はずに持つてゐるのは始だと答へた。また人殺しの科はどうして犯したかと問へば、兄弟は西陣に傭はれて、空引と云ふことをしてゐたが、給料が少くて暮しが立ち兼ねた、其内同胞が自殺を謀つたが、死に切れなかつた、そこで同胞が所詮助からぬから殺してくれと頼むので、殺して遣つたと云つた。

此話は翁草（おきなぐさ）に出てゐる。池邊義象（よしかた）さんの校訂した活字本で一ページ餘に書いてある。私はこれを讀んで、其中に二つの大きい問題が含まれてゐると思つた。一つは財産と云ふものの觀念である。錢を持つたことのない人の錢を持つた喜は、錢の多少には關せない。人の欲には限がないから、錢を持つて見ると、いくらあればよいといふ限界は見出されないのである。二百文を財産として喜んだのが面白い。今一つは死に掛かつてゐて死なれずに苦んでゐる人を、死なせて遣ると云ふ事である。人を死なせて遣れば、即ち殺すと云ふことになる。どんな場合にも人を殺してはならない。翁草にも、教のない民だから、惡意がないのに人殺しになつたと云ふやうな、批評の詞があつたやうに記憶する。しかしこれはさう容易に杓子定木で決してしまはれる問題ではない。こゝに病人があつて死に瀕して苦んでゐる。それを救ふ手段は全くない。傍からその苦むのを見てゐる人はどう思ふであらうか。縱令教のある人でも、どうせ死ななくてはならぬものなら、あの苦みを長くさせて置かずに、早く死なせて遣りたいと云ふ情は必ず起る。こゝに麻醉藥を與へて好いか惡いかと云ふ疑が生ずるのである。其藥は致死量でないにしても、藥を與へれば、多少死期を早くするかも知れない。それゆゑ遣らずに置いて苦ませてゐなくてはならない。從來の道德は苦ませて置けと命じてゐる。しかし醫學社會には、これを非とする論がある。即ち死に瀕して苦むものがあつたら、樂に死なせて、其苦を救つて遣るが好いと云ふのである。これをユウタナジイといふ。樂に死なせると云ふ意味である。高瀬舟の罪人は、丁度それと同じ場合にゐたやうに思はれる。私にはそれがひどく面白い。

かう思つて私は「高瀬舟」と云ふ話を書いた。中央公論で公にしたのがそれである。

（大正五年一月「心の花」第二十卷第一號）

青空文庫情報

底本：「日本現代文學全集　7　森鴎外集」講談社
　　1962（昭和37）年1月19日初版第1刷
　　1980（昭和55）年5月26日増補改訂版第1刷
入力：青空文庫
1997年10月16日公開
2004年3月23日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

高瀬舟縁起

森鴎外

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/